

10 柔道競技

1 期 日	令和元年6月7日(金)	計量(男女個人)	11時~11時50分	朝暘武道館
		審判・監督会議	13時00分	朝暘武道館 会議室
		開会式	14時00分	
		競技開始	14時30分	男女個人試合(ベスト32)
		第1回理事会	競技終了後	朝暘武道館 会議室
	6月8日(土)	競技開始	9時00分	男女個人試合
		表彰式		
	6月9日(日)	審判・監督会議	8時40分	(8時00分 開場)
		競技開始	9時10分	男女団体試合~
		閉会式		

2 会場 朝暘武道館 〒997-0825 山形県鶴岡市小真木原町2番1号 TEL 0235-29-1346

3 競技規則

(1) 試合は「国際柔道連盟試合審判規定」による。

(2) 「優勢勝ち」の判定基準

ア 団体試合は、「技あり」以上または「僅差」(「指導」差2)とする。チームの内容が同等の場合は、代表選手を任意に選出して代表戦を行う。代表戦で得点差がない場合、延長戦(ゴールデンスコア)により勝敗を決する。

※代表戦における優勢勝ちの判定基準は「技あり」または「僅差」(「指導」差2)以上とする。ただし、勝敗が決しない場合は延長戦(ゴールデンスコア)により勝敗を決する。延長戦の判定基準・実施方法は個人試合に準ずる。

イ 個人試合は、「技あり」以上または「僅差」(「指導」差2)とする。得点差がない場合は、延長戦(ゴールデンスコア)により勝敗を決する。

(3) 個人試合において「同時反則負け」の場合、次の試合の出場者は、延長戦(ゴールデンスコア)によって決める。

(4) 試合時間は、4分とする。延長戦(ゴールデンスコア)は、無制限とする。

(5) 柔道衣コントロールは各自の責任で行う。試合中に違反が発覚した場合は、「反則負け」となる

(6) 大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。

4 競技方法

(1) 男子団体試合

ア 試合はトーナメント法で実施する。

イ 3位チームで東北大会出場決定戦を行う。

ウ チームの勝敗の決定は次による。

(ア) 勝ち数の多いチームを勝ちとする。

(イ) (ア)で同等の場合は、「一本」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

(ウ) (イ)で同等の場合は、「技有」による優勢勝ち数の多いチームを勝ちとする。

(エ) (ウ)で同等の場合は、「僅差」(「指導」差2)勝ち数の多いチームを勝ちとする。

(オ) (エ)で同等の場合は、引き分けとし、代表戦を行い決める。

(2) 男子個人試合

ア 体重別試合とし、トーナメント法で実施する。

イ ベスト4が東北大会出場権を得る。

(3) 女子団体試合

ア 試合はトーナメント法で実施する。

イ 1位、2位チームが東北大会出場権を得る。

ウ チームの勝敗の決定は、男子と同じとする。

(4) 女子個人試合

ア 体重別試合とし、トーナメント法で実施する。

イ 1位、2位が東北大会出場権を得る。

5 参加資格 基本要項に準ずる。

6 参加制限

(1) 男子団体試合

ア 各校1チームとし、オープン参加とする。

イ 試合は5人の点取り試合とする。チームは監督1名、選手8名を申込み(登録)、3日目監督会議前までに、オーダー用紙に選手5名と補欠1名を記入し提出すること。

(2) 男子個人試合

ア 体重別試合とし、次の7階級とする。

60kg級、66kg級、73kg級、81kg級、90kg級、100kg級、100kg超級

イ 選手は各地区予選を経た者とする。

ウ 各校から同一階級に出場できる選手は4名までとする。

(3) 女子団体試合

ア 各校1チームとし、オープン参加とする。

イ 試合は3人の点取り試合とする。チームは監督1名、選手6名を申込み(登録)、3日目監督会議前までに、オーダー用紙に選手3名と補欠1名を記入し提出すること。

(4) 女子個人試合

ア 体重別試合とし、次の7階級とする。

48kg級、52kg級、57kg級、63kg級、70kg級、78kg級、78kg超級

イ 選手は各地区予選を経た者とする。

ウ 各校から同一階級に出場できる選手は4名までとする。

7 参加申込は基本要項に準ずる。

8 表彰及び上位大会出場選考

(1) 基本要項に準ずる。

(2) 全国高校総体出場枠

男女ともに団体優勝校、個人は男女各7階級の優勝者が出場権を得る。

(3) 東北大会出場枠

男子団体は上位3校、女子団体は上位2校。男子個人7階級の上位4名、女子個人7階級の上位2名が出場権を得る。

※個人で出場権を得た者が、怪我等で棄権する場合は、その事実が判明次第早急に委員長に連絡すること。代替え選手については別途審議のうえ決定する。(基本的に同校の選手変更は認めない)

9 組合せ

(1) 団体試合

ア 男子女子とも新人大会ベスト4(強化指定校)、各地区1位の順にシードする。

イ 同地区が各グループに地区ベスト4等、バランスよく入るように組み合わせる。

(2) 個人試合

ア 強化指定選手、新人大会ベスト4、地区1位の順にシードする。

イ 同地区が各グループに地区ベスト4等、可能な限りバランスよく入るように組み合わせる。

ウ 同一校から2名以上出場の場合は、決勝又は準決勝まで対戦しないように配慮する。

(3) 組合せ抽選日 5月21日(火)(於;鶴岡中央高校)

10 連絡事項

(1) 男女団体試合のオーダー表(対戦掲示用)は各校で準備し、3日目監督会議前までにオーダー用紙と共に模造紙縦1/4(27cm)にて、右より縦書き(巾約13cm)学校名、大将、副将の順(女子は副将、次鋒をあける)に選手名を記入し、角封筒に入れて提出すること。

(2) 団体チーム及び個人の監督は、男女が同一にならないようにすること。

(3) 試合中における「監督の行為・言動」、「罰則規定」については、十分理解しておくこと。

(4) 大会前1か月以内に脳震盪を受傷した者は、脳神経外科の診察を受け、出場の許可を得ること。

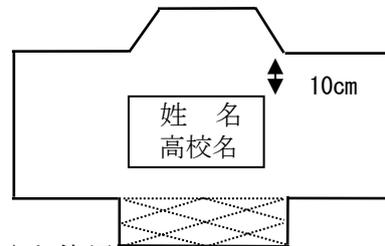
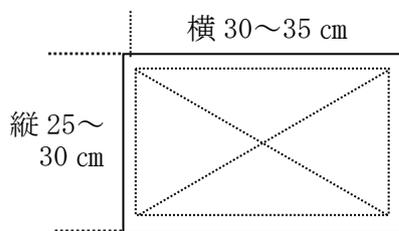
(5) この大会は、国体選手選考の参考資料となる。

(6) 本大会の個人試合で、1・2年生のうち1・2位になった者は、強化選手として追加指定する。

(7) 計量で合格しない者、ゼッケンの付いていない者は出場の資格を失う。

(8) ゼッケンの付け方などは、次のとおり。

(図1) ゼッケンの縫い付け方 (図2) ゼッケンの位置



ア ゼッケンの布地は、晒太綾(さらしふとあや)を使用する。

イ 図1の点線の部分を、図2の位置に強い糸で縫い付ける。(縦横ならびに対角線)

ウ 姓は上側2/3、学校名は下側1/3の部分に、書体は楷書で、男子は黒字、女子は赤字で書く。

エ サイズは縦25~30cm、横30~35cmとする。